

地域創造学類カリキュラムマップ(福祉マネジメントコース専門科目)(平成23年度までの入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ福祉マネジメントコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
福祉マネジメントコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝ 人権の保障
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝ 福祉の歴史・制度・政策
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝ 援助技術・方法、ソーシャル・アクション
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

※平成20年度入学者はカリキュラム改訂により履修できない科目があるので注意すること

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35500	社会福祉総論Ⅰ	国民の生活実態と社会福祉制度の理念、歴史、運動、国際動向等を知り、政策立案・マネジメント能力の基礎を身に付ける。	社会福祉、人権、社会保障、制度、政策、歴史、貧困	2	2		◎	◎		○		◎	◎	
35501	社会福祉総論Ⅱ	社会福祉の各分野について学習し、制度活用のための基礎知識を身につける。	生活保護、障害をもつ人、子ども、女性、高齢者、人権	2		2	◎	◎		○		◎	◎	
35502	社会保障論Ⅰ	市場経済とは異なる社会保障の仕組みとそれが現代において果たしている役割について理解する。その上で、社会保障をめぐる具体的な問題状況を新聞・雑誌・統計資料・文献等をつかって自ら整理・分析し、社会保障を見る目を養う。	生活保障、公共・公益、公的責任、高齢化・少子化、構造改革	2	2		◎	○		○		○		
35503	社会保障論Ⅱ	社会保障の各制度ごとの基本的内容と政策上の争点を踏まえた上で、各自が政策選択について自らの見解を明確にする。	社会保障、年金、医療、介護、生活保障	2		2	◎	○		○		○		
35504	地域福祉論Ⅰ	・地域福祉の理論と歴史を理解する。 ・地域福祉に関わる組織・団体・専門職の役割について理解する。 ・地域ニーズの把握方法と地域福祉計画について理解する。	地域福祉、地域組織、専門職、地域ニーズ、地域福祉計画	3	2		◎	○		○		○		
35505	地域福祉論Ⅱ	・地域福祉の方法とサービスについて理解する。 ・高齢者・児童・障害のある人等と地域福祉との関わりを理解する。 ・地域福祉とまちづくりとの関わりを理解する。	地域福祉、在宅福祉、施設福祉、高齢者、児童、障害のある人、まちづくり、地域システム	3		2	◎	○		○		○		
35506	高齢者福祉論	高齢化社会の内容及高齢者の特質、高齢者保健福祉の制度体系等について、授業およびレポート作成を通して理解を深め、これらに対する自分自身の意見をまとめる。	高齢者、高齢化社会、高齢者保健福祉	2	2		◎	○		○		○		
35507	介護福祉論	社会福祉士として現場に出た際に、どのような視点が必要なのか、制度と実態の関係性を学ぶ。	社会保障・社会福祉政策、人権保障、介護、高齢者の権利、生命、暮らし、健康	2		2	○	◎				○		
35508	障害者福祉論	障害にかかわる自分なりの意見や考えを構築し、それを他者に伝えることができるようになる。	障害、地域福祉、障害観	2	2			◎				◎		○
35509	児童福祉論	・子どもを主権者としてとらえる。 ・子どもの権利、その家庭の保障とは何かを学ぶ。 ・児童福祉の意義を学ぶ。	社会保障・社会福祉政策、人権保障、子どもの権利、暮らし	2	2		○	◎				○		
35510	公的扶助論	・生活保護制度の仕組みと役割について理解する。 ・貧困問題に関する歴史的、国際的展開を踏まえ、公的扶助制度の意義を理解する。	生活保護、社会福祉、社会保障、公的扶助、生存権	2		2	○	◎				○		
35511	福祉社会学Ⅰ	・現代社会の福祉について歴史的経緯と現状に関する知識を学習し、共生の理念と施策の展開について構想する力を身につける。 ・学習した知識やデータをふまえてディスカッションやグループワークに取り組み、自分の考えを表明したり他者の意見を受け止めたりしながら議論する姿勢を身につける。	福祉、障害をもつ人、外国人、多様性 共生	2	2			◎				◎	○	

地域創造学類カリキュラムマップ(福祉マネジメントコース専門科目)(平成23年度までの入学用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ福祉マネジメントコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
福祉マネジメントコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝ 人権の保障
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝ 福祉の歴史、制度・政策
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝ 援助技術・方法、ソーシャル・アクション
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。

1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

※平成20年度入学者はカリキュラム改訂により履修できない科目があるので注意すること

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	知識・理解		学習成果		思考・判断	関心・意欲	態度
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法			
35512	福祉社会学Ⅱ	・現代社会の医療と福祉をめぐる課題について学習し、解決に向けた理念や施策について国際的な動向をふまえて考える力を身につける。 ・学習した知識やデータをふまえてディスカッションやグループワークに取り組み、多様な視点を整理し主体的に学ぶ姿勢を身につける。	医療、福祉、参加、権利擁護、社会的包摂	2		2		◎		◎	◎	○	
35513	社会計画論	日本における社会計画の歴史を概観しながら、社会計画のさまざまな対象と方法について理解する。さらに、社会計画の限界や今日の問題についての認識を深める。そして、現代社会における計画の立案・実施・評価という社会計画の実践についての基本的知識を身につける。	社会計画、社会システム、公共性	2	2		◎	◎			○	○	
35514	福祉国家論	福祉国家の歴史的発展を学ぶことを通じて、福祉国家の理念と基本的な価値について理解を深める。さらに、現代の福祉国家が抱えている諸問題を、構造的に理解する。そのうえで、今後の福祉国家のあるべき姿について、自分なりに考察を展開することをめざす。	福祉国家、ソーシャル・ガバナンス、第三の道	2		2		◎		◎	○	○	
35515	社会政策論Ⅰ	・今日の雇用・失業の現状について統計資料を用いて分析する力を身につける。 ・雇用・失業に関する社会政策は歴史的にどのように発展してきたかについて理解する。 ・雇用・失業政策をめぐる今日の対抗について理解するとともに、望ましい雇用・失業政策について自らの見解を持てるようにする。	失業、半失業、潜在的失業、労働市場、雇用の弾力化、正規雇用、非正規雇用、派遣労働者、パートタイマー、ワーキングプア、雇用政策、失業政策、セーフティネット	2	2			◎			◎	○	○
35516	社会政策論Ⅱ	・日本の労働時間や賃金、労使関係、男女平等などをめぐる現状について統計資料を用いて分析する力を身につける。 ・それらの日本の特徴及びそれを規定している要因について、諸外国との比較をおと理解する。 ・労働時間や賃金、労使関係、男女平等に関する政策をめぐる今日の対抗について理解するとともに、望ましい政策について自らの見解を持てるようにする。	労働基準、労働時間、安全衛生、過労死、最低賃金制、労働組合、男女雇用機会均等法	2		2		◎			◎	○	○
35517	アダブテッドスポーツ論	アダブテッド・スポーツの概念を理解すると共に、アダブテッド・スポーツの概念を具現化するためにはどのような社会環境を構築する必要があるのかを理解する。	アダブテッド、スポーツ文化、インクルージョン	2	2		◎	○	○			○	
35518	福祉レクリエーション論	レクリエーションの概念およびレクリエーション活動を実施する際のプロセスを理解する。	レクリエーションの歴史、生活のレクリエーション化、セラピューティックレクリエーション、A-PIEプロセス	2		2	◎	○	○			○	
35519	社会福祉施設経営論	ソーシャルワーカーとしての基礎知識を修得する。特に、経済経営用語、組織論などにも踏み込むため、必要最低限の経済知識や公益法人制度、国の制度政策、人材確保、資金管理など多岐にわたる内容を理解する。	福祉サービス、ガバナンス、組織論	3	2		○	◎			○		
35520	経営管理論A	組織(営利、非営利の双方を含む)の管理に関する歴史的・理論的潮流を整理するとともに、今日の組織管理、経営管理においてなにが問題となっているのか、そして組織はどのような方向を目指すべきなのかを探る。	企業、経営、効率性、人間性	2	2		◎	◎	○		○	○	

地域創造学類カリキュラムマップ(福祉マネジメントコース専門科目)(平成23年度までの入学用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ福祉マネジメントコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
福祉マネジメントコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝ 人権の保障
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝ 福祉の歴史、制度・政策
② 技能・表現	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝ 援助技術・方法、ソーシャル・アクション
	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
③ 思考・判断	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
	④ 関心・意欲	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。
⑤ 態度	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。

1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

※平成20年度入学者はカリキュラム改訂により履修できない科目があるので注意すること

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	知識・理解		学習成果		思考・判断	関心・意欲	態度
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法			
35521	労使関係法	労働組合の行う集団的行為には、個人の行為とは異なった特殊な法的考察が求められ、事例を素材にして、この点を習得する。また、労使紛争を未然に防止するとともに適切に解決するには、どのような点が重要かを理解する。	労働者、使用者、労働組合、団体交渉、労働協約、争議行為、不当労働行為	3	2		◎	○			◎	○	
35522	法学概論	法学類・法学部が提供する講義の広がりや理解し、また基本的な用語法を知り、かつ学習方法を学ぶこと。	法、法律学、公法学、私法学、基礎法学	2	2		◎	◎			○	○	
35523	医療福祉論	・現在の保健医療サービスの概要について知識をもつ。 ・保健医療サービスの利用者やその家族の視点から求められる医療と福祉の支援について考え構想する力を身につける。	保健医療サービス 医療と福祉の連携 当事者主体	3		2	◎	◎	○		○		
35524	心理学概論	1.現代心理学の対象と方法論を学ぶ 2.現代心理学の各分野における基本的な理論を学ぶ 3.上記2で学習した事を、日常生活の中で検討する	行動科学、自己理解、他者理解	2		2	○				◎	○	
35525	臨床医学概論	医学と医療について関心を持つこと 医療と社会福祉の関係について自分自身の経験を通して考えること 医療保険制度について理解を深めること インターネットなどを用いて、医療に関する情報を集め、整理し、発表する能力を高める	医学の歴史、医療保健制度、医の倫理	2		2	◎	○	◎			○	
35526	社会学	社会学の基本的な概念や理論を学び、社会学の思考方法を身につけることを目的とする。近代社会誕生以来の社会変動と生活の変化に注目しつつ、現代社会の特質についてよりよく理解し、現代社会に存在するさまざまな問題や矛盾を発見する能力を養うことを目指す。	社会学的想像力、モダニティ、行為と構造	2	2		○		○		○	◎	◎
35527	社会調査論	社会調査の技法に関する具体的な知識を習得することで、既存の調査データの信頼性や妥当性を確認し、データ解釈の誤りを見抜く力をもてるようにする。また、問題の設定から仮説構成、調査票の作成と実施、結果の集計と分析、という一連のプロセスの経験をおとして、社会調査の長所や短所、その社会的な役割について、実践的に身につける。	フィールドワーク、質的調査、量的調査	2	2				○	◎	◎	○	
35528	社会福祉行政論	行政の仕組み、問題点を知り、あるべき姿について考える力を付ける	社会福祉、政策、制度、人権保障、にない手	2		1(集中)		◎	◎	○	○	○	
35529	福祉計画論	福祉計画の理念と、内容、立案、策定、実施、評価方法を学ぶ	計画、人権、参加、評価	2		1(集中)		◎	◎	○	○	○	
35530	雇用政策論	・就労支援の目的、就労支援体制・制度の現状と課題、就労支援分野の連携、就労支援における社会福祉士の役割などについて理解を深める。 ・改正社会福祉士・介護福祉士法に基づく社会福祉士養成カリキュラムが求める就労支援に関する知識を修得するとともに、自身の視点で就労支援のあり方について考える力を養う。	就労支援制度、就労移行支援、就労継続支援、自立支援プログラム、雇用政策、ハローワーク、生活保護、障がいのある人、低所得者、高齢者、母子世帯、ホームレス、社会福祉士	2		1(集中)			◎	○	◎	○	

地域創造学類カリキュラムマップ(福祉マネジメントコース専門科目)(平成23年度までの入学用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ福祉マネジメントコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
福祉マネジメントコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝ 人権の保障
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝ 福祉の歴史、制度・政策
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝ 援助技術・方法、ソーシャル・アクション
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。

1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

※平成20年度入学者はカリキュラム改訂により履修できない科目があるので注意すること

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	知識・理解		学習成果		思考・判断	関心・意欲	態度
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法			
35531	権利擁護と成年後見制度	・権利擁護法制が必要とされる福祉の現代的状況について理解する。 ・法的原理や関連法律との関係、成年後見制度について理解する。 ・権利擁護に関わる各種の事業とそれに係る組織や団体の役割と実際の活動を理解する。 ・社会的排除や権利侵害に対するアドボカシーの意義を理解する。	人権、権利擁護、アドボカシー	2	2		◎	◎			◎		○
35532	更生保護論	日本における、犯罪者・非行少年に対する処遇の中で、社会内処遇に位置づけられる更生保護について学習し、その多様性について理解を深める。	仮釈放、保護観察、恩赦、被害者対策、更生緊急保護、医療観察、民間ボランティア、犯罪予防活動、関係機関との連携	2		1(集中)	◎	○	○				○
35533	社会福祉援助技術総論Ⅰ	・社会福祉従事者として必要な権利擁護の視点及び社会福祉サービス利用者の権利を無視しての福祉サービスは成り立たないことを理解すること ・「福祉サービスのにない手」＝「人権のにない手」であることを意識すること	対人援助、倫理、人権	2	2		○		◎				
35534	社会福祉援助技術総論Ⅱ	・社会福祉従事者として必要な権利擁護の視点及び社会福祉サービス利用者の権利を無視しての福祉サービスは成り立たないことを理解すること ・「福祉サービスのにない手」＝「人権のにない手」であることを意識すること	対人援助、倫理、人権	2	2		○		◎				
35535	社会福祉援助技術論Ⅰ	・社会福祉従事者として必要な権利擁護の視点及び社会福祉サービス利用者の権利を無視しての福祉サービスは成り立たないことを理解すること ・「福祉サービスのにない手」＝「人権のにない手」であることを意識すること	対人援助、個別援助技術、マネジメント、面接、記録	2		2	○	○	◎				
35536	社会福祉援助技術論Ⅱ	・実践に裏打ちされた理論を学ぶ。 ・相談援助の実践モデルを学び、その具体例より実践を理解する。 ・グループワーク基礎理論の理解とその展開、応用を学ぶ。 ・グループダイナミクスを理解する。 ・リーダーとメンバーの相互作用、リーダーシップのあり方などを学ぶ。 ・家族システムとファミリーソーシャルワークを理解する。	対人援助、集団援助技術、相互作用、家族システム	2	2		○	○	◎				
35537	社会福祉援助技術論Ⅲ	・ケアマネジメント理論について理解する。 ・ケアマネジメントが現在の社会制度の中でどのように使用されているか、現状を理解する。	対人援助、ケアマネジメント	2		2	○	○	◎				
35538	社会福祉援助技術論Ⅳ	・事例をとおして、ソーシャルワーク実践(多様な相談援助の対象と場面)に対する理解を深める。 ・実践の根拠となるソーシャルワークの価値を学ぶ。 ・「福祉サービスのにない手」＝「人権のにない手」であることを意識する。	対人援助、面接、当事者、SST、ソーシャルアクション	2		2	○	○	◎				
35539	社会福祉援助技術演習Ⅰ	・他者を理解する前提として、自己の価値基準、基本的な前提、感情等についての理解ができること。 ・コミュニケーション技術の基本を身につけること。	ロールプレイ、他者理解、自己理解、コミュニケーション技法	2	2		○		◎				
35540	社会福祉援助技術演習Ⅱ	・援助者として求められる面接技術の基本を身につけること。	ロールプレイ、面接、コミュニケーション技法	2		2	○		◎				
35541	社会福祉援助技術演習Ⅲ	・利用者の生活に視点をあてた実践的な相談援助の技術や価値を身につけること。	事例検討、生活アセスメント	3	2		○		◎				

地域創造学類カリキュラムマップ(福祉マネジメントコース専門科目)(平成23年度までの入学用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ福祉マネジメントコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
福祉マネジメントコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝ 人権の保障
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝ 福祉の歴史、制度・政策
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝ 援助技術・方法、ソーシャル・アクション
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。

1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

※平成20年度入学者はカリキュラム改訂により履修できない科目があるので注意すること

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	知識・理解		学習成果		思考・判断	関心・意欲	態度
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法			
35542	社会福祉援助技術演習Ⅳ	・利用者の生活に視点をあてた実践的な相談援助の技術や価値を身につけること。	事例検討, 生活アセスメント	3	2		○		◎	○			
35543	社会福祉援助技術演習Ⅴ	・利用者の生活に視点をあてた実践的な相談援助の技術や価値を身につけ、専門職としての意識を確立する。	ロールプレイ, スーパービジョン, アセスメント	4		2	○		◎	○			
35544	社会福祉援助技術現場実習	・相談援助に係る知識と技術を体得する。 ・社会福祉従事者として必要な権利擁護の視点及び社会福祉サービス利用者の権利を無視しての福祉サービスは成り立たないことを理解すること。	専門職, 職業倫理, 連携	4		4(集中)	○		◎	○			
35545	社会福祉援助技術現場実習指導	事前・事中・事後の学習過程を通して、社会福祉士として必要な以下の事項について理解を深める。 ・援助や福祉サービス利用者を全人格的に理解する。 ・福祉サービス利用者が生活する地域社会の生活環境を理解する。 ・福祉サービス利用者暮らしのなかで、チームケアによる幅広いサービスが提供されていることを理解する。 ・サービス提供事業所の経営・運営管理を理解する。	専門職, 職業倫理, チームケア, 地域連携	3		6(3年後期→4年前期→4年後期)	○		◎	○			
35546	社会福祉論演習	問題の発見、構造の把握、解決の視点と方法＝政策立案・マネジメント能力を身につける。	福祉政策、社会保障と社会福祉、理念と原則、生活実態、制度実態	3		4			◎	◎	◎	◎	
35547	社会保障論演習	現代の生活問題と貧困の実態を多面的に把握するとともに、それに対応する社会保障の仕組みを理解する。そのうえで、それぞれの制度の現状と課題を、現場の声、文献・資料の分析などを通して明らかにする力をつける。	生活保障、セーフティネット、貧困、格差	3		4	◎	○	○	○			
35548	共生身体文化演習	まちづくりに貢献できる事業を、実際に立案・運営等を行うことを通じて、コミュニケーション能力およびマネジメント能力を高める。	コミュニケーション、マネジメント、ソーシャルキャピタル、まちづくり	3		4			○	○	○	○	
35549	福祉社会学演習	・討論への参加によって、他者の意見を聞き自らの意見を発言するマナーを身につける。 ・それぞれテーマを設定し自主的に文献を探して報告発表できるようにする。 ・レジュメや卒論の作成を通して、資料収集や調査・フィールドワークを主体的に行う。 ・社会に対する「問い」をたてられるようになる。	福祉社会学、医療社会学	3		4			○	◎	○	○	
35550	社会計画論演習	社会計画や福祉国家に関する文献を数多く読み、それらに関する基礎的知識を習得する。そのうえで、社会計画や福祉国家に関連した研究対象を自ら選択し、それについて調べ、対象を分析し、研究報告を行い、論文にまとめるという、一連の研究の仕方を身につけることを目標とする。	社会計画、公共性、福祉社会	3		4	○	○	○	○	◎	○	
35551	社会政策論演習	・テキストや統計資料をもとに、今日の雇用・失業に関する問題状況を客観的にとらえることができる。 ・行政機関および企業などに対するヒアリング調査に取り組む力をつける。 調査をとおして雇用・失業問題についての認識を豊かにする。 ・これらをおして、雇用・失業問題の改革に向けた政策課題を提案できる力量をつける。	雇用、失業、労働市場、人事管理、正規雇用、非正規雇用、雇用政策、失業政策、貧困、セーフティネット	3		4	○	○	○	○	◎	○	
35400	卒業演習	各自の関心・テーマを探求し卒業論文を執筆するための研究・実験・調査等を行うとともに、論文執筆の技法を身につける。	卒業論文、論文執筆の技法	4		4	◎		◎	◎		◎	

地域創造学類カリキュラムマップ(福祉マネジメントコース専門科目)(平成23年度までの入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ福祉マネジメントコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
福祉マネジメントコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。= 人権の保障
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。= 福祉の歴史、制度・政策
② 技能・表現	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。= 援助技術・方法、ソーシャル・アクション
	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。

1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

※平成20年度入学者はカリキュラム改訂により履修できない科目があるので注意すること

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35401	卒業研究	各自の関心・テーマを探究し大学での学習の集大成となる卒業論文を執筆する。	卒業論文	4	6		◎	◎			◎		◎	